

申請者	学科名	保健福祉学科	職名	教授	氏名	佐藤和順印
調査研究課題	外国籍の子どもの教育・保育の質を保障するカリキュラム構築に関する研究					
交付決定額	300千円					
調査研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	佐藤和順	保健福祉学科・教授	教育学・幼児教育	研究の総括	
	分担者					
調査研究実績の概要	<p>ITの発展に伴いグローバル化が進み英語力のスキルアップや異文化の理解力の向上を目指したグローバル化教育がわが国の喫緊の課題であることは明白である。一方では、多くの外国籍労働者や留学生が岡山県に滞在している現状がある(平成22年度 岡山県外国人登録者数22,394人)。</p> <p>帯同している小学校就学後の児童・生徒については、学校種別在籍状況等も調査され加配教員等の支援体制もとられている。一方、就学前の幼稚園・保育所等に通う子どもの数は調査等も実施されておらず、不明である。個別の子どもへの支援体制は、所属園に一任の状態であり、外国籍の子どもが入園し、保育者がその対応に追われているという課題が保育現場より指摘されている。グローバル化に伴い、わが国に在住の外国籍の子どもの幼児教育・保育の質を担保することも喫緊の課題である。</p> <p>そこで本研究は、グローバル化に対応した幼児教育・保育カリキュラムを構築する前提として県下の就学前の外国籍の子どもの就園状況を把握すること、外国籍の子どもの保育の実態を調査することを目的とするものである。</p> <p>【外国籍の子どもの就園状況調査】 質問紙郵送により岡山県内の幼稚園・保育所・認定こども園を対象にした在籍状況の調査を実施した。(調査対象：岡山県下 保育所386園、幼稚園334園、認定こども園9園 調査期間：平成25年12月～平成26年1月末) 有効回答は408園(回収率55.6%)であった。回答園の設置別割合は図1に示すとおりである。</p>					

調査研究実績
の概要

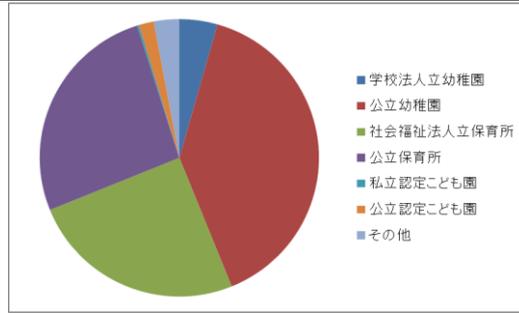


図1：回答園の設置別割合

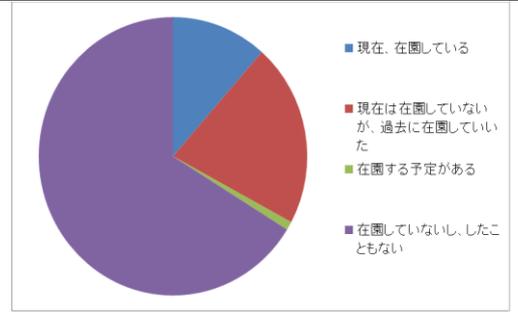


図2：外国籍の子どもの就園状況

表1：母語別園児数

母語	ポルトガル語	中国語	フィリピン語	スペイン語	ベトナム語	英語	韓国語・朝鮮語	その他・不明	合計
園児数	14	37	9	5	3	13	14	31	128

外国籍の子どもの就園状況については、図2のとおりである。現在、外国籍の子どもが在園している園は47園であり、子どもの総数は128名であった。子どもの母語は表1のとおり「中国語」が37名で最も多く、「その他・不明」も31名であった。

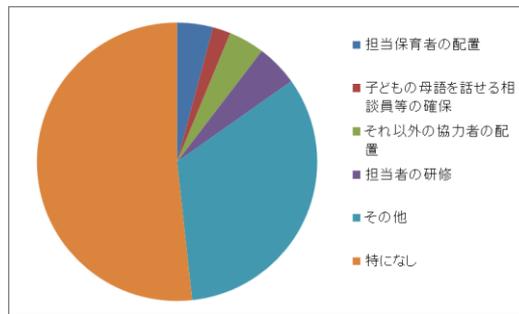


図3：外国籍の子どもへの配慮事項

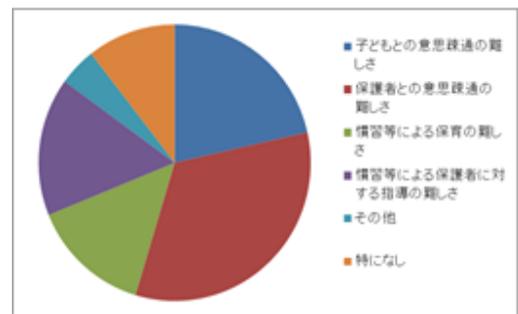


図4：外国籍の子どもに係る課題

外国籍の子どもに配慮している事項については、「特になし」が最も多く、外国籍の子どもの在園で課題となっていることとしては、「保護者との意思疎通の難しさ」、「子どもとの意思疎通の難しさ」が高い割合を示した。

【外国籍の子どもの保育の実態調査】

外国籍の子どもの園における保育・教育の状態をエスノグラフィー的手法で調査を行った。その結果、保育者の個別対応だけでは子どもの健全な育ちを保障できないと保育者は感じており、園全体の保育者等との情報共有を図る園内カンファレンスを実施する必要性等が顕在化した。また、子どもの言語や宗教などは多様であり、園のみの対応では解決できない問題もあり、行政等の支援も望んでいることが分かった。

併せて、子ども自身は日本国籍を有しているが、保護者が外国籍であり、日本語を母語としない子どもの保育についても同様の課題があることが明らかとなった。

新しく顕在化した課題については、公益財団法人福武教育文化振興財団平成26年度教育研究助成採択研究として継続的に研究をする予定である。

成果資料目録

本研究の成果については、日本人権教育研究会『人権教育研究』第15巻に投稿予定である。